

ゆうぐん

# 雄郡地区

面積：3.69 km<sup>2</sup>

人口：33,001人（高齢化率 22.8%）

世帯数：16,803世帯

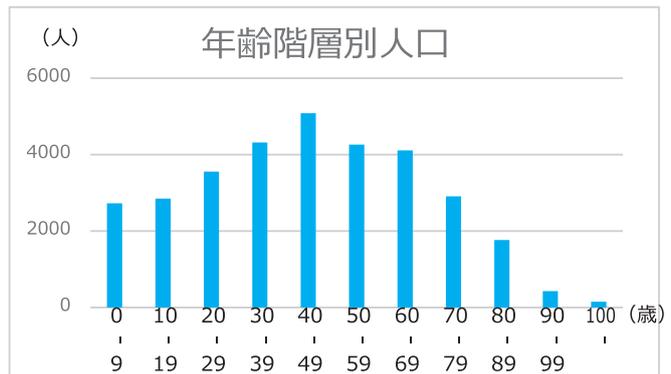


## 【地区の特色】

宅地、マンション化が急速に進み、市内でも人口が多い地区である。シンボルは「子規の歩いた道」で、子規によって俳句が詠まれた句どころ（雄郡神社・末広町の正宗寺など）も多い。郷土の芸能では竹原町・針田町の獅子舞が保存会として演じられており、義士祭・福運祭などがにぎやかに行われている。地区の木は「榎の木」で、花は「サルビア」である。近年は都市化が一段と進んでいるが、今なお伝統や文化を大切にする気質が残っている地域である。



雄郡地区成人式



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地区と商業地区がうまく共存しており、生活しやすい</li> <li>・サロン活動が活発である ・地域、学校、PTAなど各団体が協力し合っている</li> <li>・松山中心部に位置しており、生活に便利である</li> <li>・郡中線により中心部との行き来は便利</li> <li>・雄郡公民館と連携して充実した活動ができている ・歩道が整備されつつある</li> <li>・水質がよいため井戸水を使用しているところもある</li> <li>・まちづくり協議会が中心となり三世代交流や芝居、認知症カフェなど行事が盛んである</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区が広すぎて事業活動の分割をよぎなくされ、一カ所で事業を行うと参集しにくい</li> <li>・交番が少ない ・西部は交通が不便なところがある ・地域のつながりが希薄</li> <li>・マンション、駐車場が増え住民のつながりが希薄になりやすい</li> <li>・放置された田畑や空き家が増えている ・場所によっては歩道の整備が不十分</li> <li>・木造の密集家屋が多い</li> <li>・ボール遊びをする場がない</li> <li>・独居高齢者は増えているが高齢クラブに入会する人数は減少している</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は増加しているが、高齢クラブが減っており、外出の機会が少なくなることを懸念する</li> <li>・地域が広いため、一人暮らしをしている人や生活困難者の把握がしにくい</li> <li>・マンション住民が地域との関係を持ちたがらない</li> <li>・買い物困難者の心配</li> <li>・空き家対策 ・建替できない家屋が多く道路が狭い ・猫が多い</li> <li>・世話役になる中心的な人がいない（町内会の役員になる人がいない）</li> </ul>

## 雄郡地区社会福祉協議会

こころをつなぐ“絆”まちづくり

<拠点> TEL：080-4037-0294

<b>構成団体</b>	地区民協・自治連合会・公民館・分館・高齢クラブ連合会・PTA 子育てサロン・スポーツ推進員	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
福祉だよりの発行	年3回12,000部を作成し、回覧板で地域福祉に関する情報を発信しています。小中学校にも配布し、家庭へ持ち帰ってもらうことにより地域の情報を幅広く周知できるよう工夫しています。	
交流会の開催	サロン代表者会や活動研修会などで体操や脳トレーニングを学び、地域では絵本の読み聞かせやディスコン大会を開催するなど交流を深めています。	
福祉講座の開催	地域で暮らしていくために、年数回、まずは地域を知るところからと考え、専門講師による認知症などの学習を行っています。	

### 雄郡地区福祉まつり（6月頃）

地域住民の世代を超えた福祉の交流の場として年に一度開催しています。高齢者のサロンや児童らによる発表会やPTA等によるバザーもあり、例年約800人の参加者が集います。世代や立場を超えての交流により地区の福祉活動への理解を深め、助け合いの絆を育んでいます。



#### <地区社協が目指すもの>

雄郡地区の高齢化率は22%を超え、超高齢社会を迎えました。高齢者にとって住みよい地域は障がいのある方や子どもにとっても住みよい地域となると考え、地域住民がお互いさまの気持ちで支え合える絆づくりを大事にしています。たとえ認知症になっても安心して暮らせる地域となるよう、公民館、まちづくり協議会、高齢クラブ、地区民協、小中学校と協働して福祉活動への参加をつないでいきたいと考えています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	26団体
	■まち協の設立	平成21年度	■高齢クラブ	11クラブ
			■子ども会	29団体
			■自主防災組織	40組織

利便性に富んだ都市と、小中学校・高校などが集まる学生のまちの両方が混在する地区です。雄郡地区社協では、毎年、小学校で「福祉まつり」の開催や認知症カフェを展開しておりまちづくり協議会、公民館、地区民協など関係団体が地域住民と連携を図りながら誰もが暮らしやすい街づくりを目指しています。地区内の高齢化は進んでいますが、これらの活動は認知症を理解するための啓発活動に大きな効果を発揮するとともに、地域住民や高齢者自身が福祉活動の担い手となる機会と場を創り出しているといえるでしょう。また獅子舞といった伝統文化の継承活動を通じて住民同士の交流や地域支援ネットワーク形成にも波及する活動であり世代を超えた取り組みが今後も期待できるでしょう。

ココがポイント



あらたま

# 新玉地区

面積：2.26km<sup>2</sup>

人口：11,313人（高齢化率 26.4%）

世帯数：6,376世帯

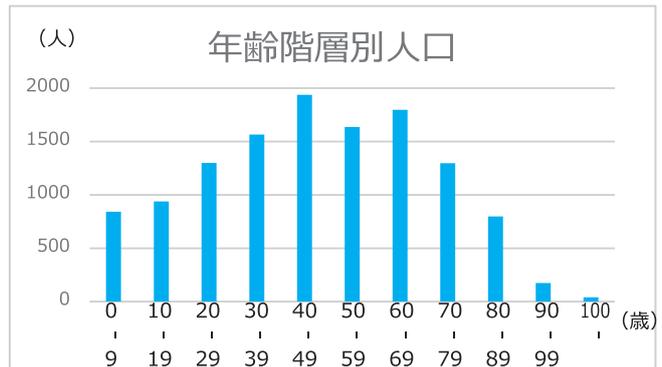


## 【地区の特色】

新玉地区は、松山市の陸の玄関口 J R 松山駅を中心に東西南北に広がっている。西側地区は農・商・住宅地であり文化遺産も多い。東側地区は商工地域とともに都市型に発展しており、新旧の違和感がなく両地区の生活環境が相まって文化度も高い。特に組織間での連帯感が強く、調和のとれた地区である。



陸の玄関口・J R 松山駅前



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が地区の中心地にあるのでみんなが集まりやすい ・交通の便が良い</li> <li>・住宅地では顔見知りも多く声かけがしやすい ・地域の一体感がある</li> <li>・地区内の各団体の連携が取れている ・防災大会への参加者が多い</li> <li>・防災の意識が高い</li> <li>・住環境が整っている（病院、スーパー、食事処、文化施設など）</li> <li>・地域の広報誌が充実している ・災害が少ない</li> <li>・コミュニティセンターがある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションの住人等地区のコミュニケーションが少ない</li> <li>・サロン等への男性の参加が少ない ・商店が減っている</li> <li>・商業地域なので住宅地が少ない ・道幅が狭く救急車や消防車が入らないところが多い</li> <li>・危険箇所がある（宮前川処理場付近）</li> <li>・災害のとき集合場所が少ないので遠くて行けない（高齢者等）</li> <li>・独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加</li> <li>・後継者や担い手不足 ・空き家が増加している</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心地のためマンションが多く、住民間の交流が少ない</li> <li>・オートロックマンションや外出しない高齢者の安否確認が難しい</li> <li>・緊急連絡先になりたくない家族がいる</li> <li>・関わってほしくない独居高齢者がある</li> <li>・日中、親が留守の家庭の見守り</li> <li>・見守りの対象とならない高齢者夫妻が心配</li> </ul>

## 新玉地区社会福祉協議会

新玉に 笑顔の福祉 広げよう

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・自治連合会・まちづくり協議会・食生活推進協議会 高齢クラブ連合会・青少年健全育成連絡協議会・みらいクラブ・交通安全協会 ボーイスカウト・小学校・中学校	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
敬老作文 “おじいさんおばあさん お元気ですか”	毎年、年末にボーイスカウトと一緒に独居高齢者を訪問し、地域の小中学生が祖父母に宛てた作文（冊子）と手作りのプレゼントを配布しています。	
ふれあい料理教室	年に5回、地域の高齢者と一緒に調理し、食事やゲームなどで交流を図っています。	
福祉講座や研修会の開催	高齢者の生活に関するテーマに沿った講演を年2回実施しています。また、協力会員研修会は福祉施設への見学を1日研修として行っています。	

## れんげ草まつり

毎年4月に地区の田んぼをお借りして、新小学1年生と高齢者など3世代によるれんげ草まつりが開催されています。沢山のれんげの花に囲まれ、カエルやバッタなど小さな生き物とたわむれ、かんむりや首飾りなどを作り、交流を深めています。



## &lt;地区社協が目指すもの&gt;

JR松山駅周辺では現在、開発が進んでおり、地区の環境や景観も大きく変わりつつあります。これらの事業は平成38（2026）年度完成が予定されていますが、線路を挟んで東西交通の安全性と利便性が向上することで、駅周辺がより魅力ある地域となり、人の交流や人口の増加も予想されます。また、市民の交流や健康づくり拠点として松山市総合コミュニティセンターがあり、憩いの場である総合公園にも隣接している地域です。地区社協としては、「新玉に 笑顔の福祉 広げよう」の理念のもと、心豊かな地域を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	24団体
	■まち協の設立	平成27年度	■高齢クラブ	6クラブ
			■子ども会	10団体
			■自主防災組織	4組織

松山の玄関口となるJR松山駅があり、そこを拠点とし市内各地へと移動できる利便性が特色です。高齢者の単身世帯増加や子どもの見守り、空き家問題などを抱える一方で、各団体の組織力と地域住民相互の連携によって地区の暮らしが展開されています。新玉地区社協では、小・中学校と連携して子どもたちの年長者に対する尊敬とやさしさを育むことを目的に作文や標語を募集し、冊子にして地域の高齢者に届ける活動を長年継続しており、伝統的な活動の一つとなっています。また、松山市総合コミュニティセンターや新玉児童館、南江戸公園などの社会資源の充実、高齢者世帯や多様なライフスタイルを持つ子育て世代にとっても「子どもの健やかな成長を育む」暮らしやすい環境であるといえるでしょう。

ココがポイント



しみず

# 清水地区

面積：3.65km<sup>2</sup>

人口：23,015人（高齢化率 24.5%）

世帯数：12,947世帯

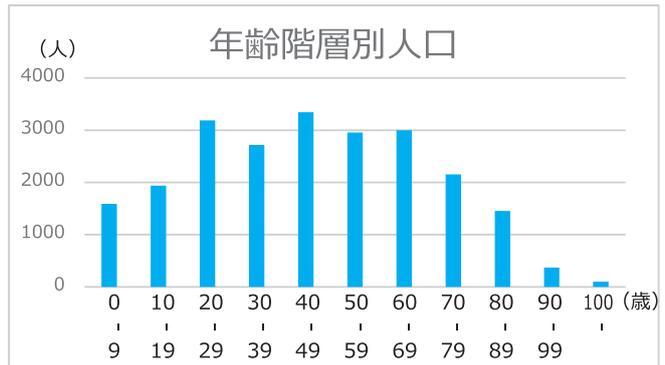


## 【地区の特色】

清水地区は、六つの小・中・高・大学がバランス良く配置された文教地区であり、加えて松山城の築城最高責任者であった足立重信の墓所、そして日露戦争で捕虜となったロシア兵を温かく迎えこの地で亡くなられた方を手厚く葬っているロシア兵墓地がある。放浪の俳人山頭火の終の住処となった一草庵を始め、由緒ある神社仏閣等の文化遺産も数多くあり、まさに躍動する新しい町と歴史の町がうまく融和し発展している地区である。



一草庵



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきがい交流センターしみずに拠点があるため民生委員・児童委員や地域包括支援センターとのつながりが強い</li> <li>・清水公民館や清水ふれあいセンターの催し物が多く地域の人に参加しやすい</li> <li>・小、中学生の登下校の見守りができている</li> <li>・各組織の協力体制ができている</li> <li>・自主防災意識が高い ・水がきれい ・災害が少ない ・ボランティア活動が活発</li> <li>・地域福祉サービス事業などの助け合い活動が盛ん ・大学生の地域行事への参加</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生が多いため地域住民とのつながりが少ない</li> <li>・マンションも多く隣人との付き合いが少なくなっている</li> <li>・組織役員（町内会長等）の担い手不足 ・町内会の行事が少ない</li> <li>・空き家が多くなってきている</li> <li>・ゴミ出しルールが守られてない</li> <li>・坂が多い区域がある</li> <li>・交通の不便な区域がある ・東部、南部にはスーパーがない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、独居高齢者の増加 → 住民の高齢化</li> <li>・短期居住者（大学生）との関係性が希薄</li> <li>・交通の不便な区域がある ・空き家問題 ・買い物に不便な地域がある</li> <li>・民生委員区域割りの検討</li> <li>・認知症高齢者の対応 ・見守りが必要な世帯の増加</li> <li>・子どもの減少 ・保育所の減少 ・移動スーパーの必要性が高まる</li> <li>・組織役員の担い手不足 ・ゴミ出しが難しくなる ・働く場所が少なくなる</li> </ul>

## 清水地区社会福祉協議会

ささえ合う 福祉のまちや 清水の輪

〈拠点〉 松山市清水町3丁目15番地 清水小学校北校舎2階 TEL / FAX : 089-916-9179

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・公民館・高齢クラブ連合会・女性防火クラブ P T A	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
ふれあい教室（9教室）	60歳以上の方を対象とした趣味活動の場であり、交流を通じて住民同士の助け合い活動に繋がっています。（コーラス、絵手紙、民踊、書道、太極拳、茶道、フラダンス、カラオケ、英会話）	
地域住民と小学生との交流	一緒に給食を食べたり、もちつきや昔の遊びを“地域の名人”の高齢者に学んだりして小学校の各学年との交流を促しています。	
福祉講座の開催	頭や身体を使った体操やワークショップを取り入れるなど、年2回テーマを話し合っ開催しており、福祉だよりにて周知啓発しています。	

### しみず祭（4月）

毎年4月の第3日曜日に清水小学校を会場として「しみず祭」が開催されています。ふれあい教室の発表やうどん、おはぎ、コーヒーなどの提供、高齢者と子どもたちによるステージ発表など関係団体・地域の皆さんのご協力もあり、毎年500名を超える来場者が交流を深めています。



### 〈地区社協が目指すもの〉

清水地区としては今後、少子高齢化・人口減少が進む中、「待ったなし」ととらえ、各種団体とも連携をとりながら、特に地区の弱みでもある町内会役員の高齢化や大学生・マンション住民との連携などを地域全体で真剣に考え、「歴史と文化と自然のまち清水」に住んでよかったと言える地域づくりを目指し、いきがい交流センターしみずにて拠点を置く清水地区社会福祉協議会が地域のコミュニティの場となることを願います。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	87団体
	■まち協の設立	平成27年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5クラブ 7団体 36組織

小学校の余裕教室を活用した「いきがい交流センターしみず」を拠点とする清水地区社協では、学校との連携により各学年の授業に高齢者や地域住民等との交流を組み込みながら事業を展開し、地域で子どもを見守り育て、それに関わる高齢者のいきがいづくりの活動が実践されています。また、今後、人口減少や高齢者の単身世帯増加といった社会的背景を受け活動の停滞や縮小が見込まれる自治活動、特に防災・減災活動のあり方を考えるとき「大学生の住民層が多い」という現状は強力なマンパワー確保へと繋がる可能性を持つ地区といえるでしょう。文教地区である特徴を活かし小学生から大学まで途切れることがない「シームレス」な地域活動や文化活動を展開することにより、地域固有の知を活かして、地域住民が生活課題に一体となって取り組むことが期待できます。



# 味酒地区

み さ け

面積：2.92 km<sup>2</sup>  
人口：21,235人（高齢化率 24.3%）  
世帯数：11,826世帯

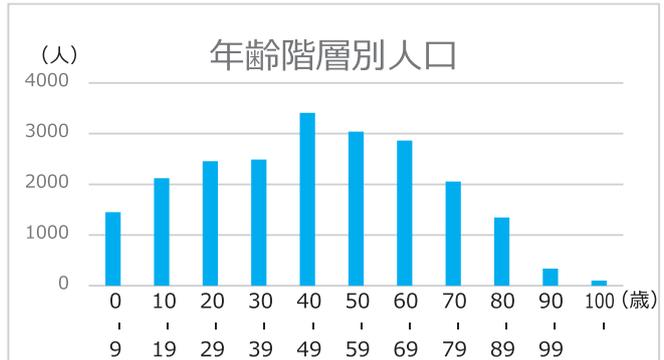


## 【地区の特色】

味酒地区は、十五万石の城下松山の西部にあつて城下町として栄えた地区であり、数多くの文化財や史跡が残っている。代表的なものとしては、全国に名の知れた俳人 栗田樗堂（くりた ちよど）が寛政十二年に建てた庚申庵がある。ここで樗堂は松山の俳人と句作を楽しんだとされている。なお、この庵は平成十五年五月に改修整備を終え、史跡庭園として現在開園している。



大峰ヶ台（西山）



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、福祉施設、生活関連施設が充分あり自然豊かで生活しやすい地域</li> <li>・陸海空交通の便が良い ・水がよい ・災害が少ない</li> <li>・教育機関(小、中)の活動が活発で、遊び場や子どもの数も多く地域に元気がある</li> <li>・児童の見守りができている（校庭にある児童クラブが大きい）</li> <li>・青パト活動等地域の団結力が強い</li> <li>・寺などの地域資源や物知りが多く、人の繋がりのある地区</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会員数が少ない→ゴミ出しについて善意の協力をしてくれる人がほしい</li> <li>・交通量が多い、道が狭い、坂が多い、バスの廃止、電車の本数が少ない等の問題がある</li> <li>・マンションが多く建ち、近隣者のお付き合いが希薄</li> <li>・町内会に入る人が少ない</li> <li>・独居高齢者の存在が明確でない</li> </ul>
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションが増え子供たちが増加している</li> <li>・独居高齢者増 ・転入者が多い ・経済的な支援を必要とする人が増えてきた</li> <li>・空き家が多い ・防災防犯に課題がある</li> <li>・地域の団結を強めていくためのリーダー育成が必要</li> <li>・避難所が少ない（見直しが必要）</li> <li>・経済的に厳しい家庭が増える</li> <li>・道がせまい ・味酒小学校を中心に東方面に集会所があればよい</li> </ul>

## 味酒地区社会福祉協議会

ささえ合い 心をつなぐ

うまざけ

味酒の (和・話・輪)

&lt;拠点&gt; 松山市若草町8番地2 松山市総合福祉センター内3F

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・町内会連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年2回 14,000部を作成し、地域福祉に関する情報や地区の貴重な人材についての紹介などを掲載し、回覧板にて全戸配布しています。	
味酒小学校で敬老会	75歳以上の高齢者を対象に5月に開催し、お弁当を食べながら演芸発表などを楽しみ交流を深めています。	
福祉講座の開催	認知症に関することや健康体操など、地域住民の生活に関するテーマを設定し、年3回実施しています。	

## サロン交流運動会 (11月頃)

地区内のふれあい・いきいきサロン、地域交流サロンの6サロン合同で玉入れやパン食い競争、チーム対抗で行うボール運びなど室内で出来る運動会を開催しています。終わった後は皆でお弁当を食べるなどして交流を深め、競技も食事も笑いの絶えない楽しい会となり、参加者の毎年の楽しみとなっています。



## &lt;地区社協が目指すもの&gt;

味酒地区社協は、今までの実践を大切にしながら、新しく天災地変時に生じやすい大峰ヶ台山麓、宮前川両所の再度点検と避難所への誘導方法について検討し今後盛り込んでいく予定です。また、地域での福祉活動が絵に描いたもちにならないよう、一緒にスクラムを組み取り組んでくれる人材の確保に努めなければならないと考えます。そのためにも福祉だよりや福祉講座等を利用し、公民館、まちづくり協議会、町内会連合会、高齢クラブ、学校、その他地区内の関係団体との協力関係を築き、人間同志の心と心を密にする事こそを活動の最大の目標とします。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	40名 3名	■町内会・自治会・区長会等	62団体
	■まち協の設立	平成28年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	8クラブ 3団体 24組織

マンションや住宅地など「かやまち商店街」をはじめとした商業施設が共存する地区で市内中心部に近いことから、地域住民の多様な生活パターンが考えられます。したがって支え合いのかたちも多様な活動が求められる地区です。そうした中で、地区社協が実施する福祉講座では、地区内の関係機関と連携しながら生活課題を選定し、地域福祉活動の理解者の拡大に努め、地域住民からのニーズに応える体制を整備しています。また、地域課題の一つとして「空き家が多い」とありますが地域住民みんなの共有資源となる潜在的空間の可能性を持った地区ともいえるでしょう。転入者層も多く子どもの数も増加傾向にあるため今後は、多世代交流の機会と場を創造することで防災だけでなく防犯の強化も併せて期待できるでしょう。

ココがポイント

